



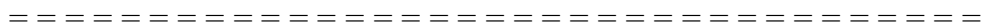
地域日本語支援ニュース こだま 第 252 号

2014.3.27



★—メールマガジンをお読みいただき、ありがとうございます—★

【地域日本語支援ニュース こだま】は、日本語教育に関する事業を全国で行っている公益社団法人国際日本語普及協会(AJALT)発行のメールマガジンです。各地域で在住外国人に対する日本語・生活支援に携わっている方々に役立つ情報の共有を目指していきます。



■ともに生きる■

～インタビュー～

国際結婚、自分あってこそ

キム ソンウン

今回ご紹介するキムソンウンさんは、日本人男性と結婚されて来日し、現在韓国語教師として活躍されています。ご主人の中野敦さんは国際フォーラムにお勤めです。お二人は中野さんが仕事の傍ら学ばれていたソウルの韓国語学校で教師と生徒として出会われました。明るく柔らかな物腰のキムさんですが、しっかりとご自分の意見を持たれ、芯の強さも感じました。インタビューでは、流暢な日本語でご自分のこと、国際結婚のことについてお話しくださいました。-----☆☆☆☆☆☆☆☆

——日本人の男性と国際結婚されて、どうですか。

よく聞かれるんですけど、いいことも悪いことも個人との関係で、日本人、韓国人という違いはあまり感じたことがないんです。

——日本での生活で、文化の違いなどを感じられたことはありますか。

2006 年に来日して日本で暮らしてみたら、不思議なんですけど自分に合っていて。初めはやはり言葉の問題が一番大きくて、何しろ追いつかない。でも、日本人は時間をかけてゆっくりと人間関係を築くんだなって、確かに感じます。

一年連絡がなければ、韓国では関係が切れちゃうんですけど、日本では何かのきっかけでまた縁ができたりして、5 年もその関係が続くとその重みをすごく感じます。韓国人は本当に短い間でうわっと気が合う、というのはあるんですけどね。

——キムさんはどんな日本文化に興味がありますか。

日本の映画は好きですね。日常生活の一つを切り取ってそれをすごく深く映画にするんです。「それ、私も考えたことがある」って思うシーンがたくさんあります。静かで柔らかい感じが哲学的で、でも残酷な現実に向き合うところは韓国映画でも同じなんですけどね。韓国映画はなんでも最後まで全部見せて表現します。こっちが引いちゃうぐらい。遠慮なく言わないと前に進まない、と言うのが韓国人の考え方のように思います。

——本当に日本語がお上手ですけど、どうやって身につけたのですか。

もちろん夫が日本人というのもあるんですけど、私は日本語をぜんぜんしゃべれなかったんです。でも、韓国語教師をしていて、日本人の学生同士が話す日本語を聞く機会が多かったことが、役に立ったなって思います。たくさん話せば上手になるのではなくて、たくさん聞くのがコツだということに気がついたんです。

——ご家庭ではどちらを話しますか。

今は私の日本語が上達したので、半々ですね。

——日本に住む日本人男性と結婚された女性に、何か私はこうしたということ、ありますか。

そうですね、人それぞれ環境は違いますが、みんな自分で暮らしている地域の文化や習慣にならって必死に自分を合わせようとすると思うんです。でもいいところを見せようと自分を忘れてしまっただけは、あまり良い結果に繋がらない、自分があるってこそだと思います。

——あまり無理をしないほうがいいということですね。これからまた韓国に帰国されて博士課程の勉強をされるそうですけど、将来はどんな風に？

仕事の面でも本当に恵まれた環境にいると思います。まだ子供がいないので、子どもが出来たら、今よりもっと日本社会との付き合いも広がって、自分も学ばなければならないことが出てくるんだろうなって思います。

——楽しみですね。キムさん、中野さんご夫妻のように幸せな国際結婚の家庭が

増えたら、地球の未来は明るいですね。貴重なお話をありがとうございました。

(聞き手:公益社団法人国際日本語普及協会 関口明子)

////ご主人の中野敦氏にも、来年度早々ご寄稿頂く予定です。////

どうぞ、ご期待ください。
